

令和元年度 16先の助成が決定

～期待される新技術・新製品～



助成金贈呈式が1月17日(金)にふくおかフィナンシャルグループ本社にて実施されました。
助成先のうち中小企業8社の研究開発概要を4ページから6ページに掲載致しております。

目 次

令和元年度 16先の助成が決定	1
令和元年度応募状況	2
これまでの助成金応募・交付状況	3
令和元年度【研究開発助成金】交付先概要	4
助成先のうち中小企業8社の研究開発概要	4～6
令和2年度助成金応募のご案内	7
「ふくぎん産学連携サポートサービス」のご紹介	8、9
「頼れる相談機関 ふくおか ^{アイスト} IST」のご紹介	10、11

令和元年度応募状況

- ・令和元年度の応募総件数は34件でした。
- ・県別では福岡県が22件で全体の64.7%を占め、次に鹿児島県が4件・11.8%、続いて佐賀県・長崎県・熊本県が各々2件5.9%、大分県・山口県が各々1件・2.9%の応募がありました。
- ・分野別では化学・新素材に関するものが8件・23.5%、機械・メカトロニクスに関するものが7件・20.6%、電機・エレクトロニクスに関するもの5件・14.7%、食品・バイオテクノロジーに関するものが3件・8.8%、その他が11件となっております。
- ・学識経験者で構成する審査委員による審査委員会を開催し、16先を選定。令和2年1月17日（金）にふくおかフィナンシャルグループ本社ビルで助成金贈呈式を行いました。
- ・交付した助成金の総額は16先合計で53,125千円となりました。

1. 県別の応募件数（研究開発助成金と人材育成助成金の合計）

(件)

年度 県別	S60～H26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元年	シェア	累計	シェア
福岡	605	22	19	20	22	22	64.7%	710	59.7%
佐賀	34	4	3	1	1	2	5.9%	45	3.8%
長崎	57	1	0	3	4	2	5.9%	67	5.6%
熊本	69	0	0	4	13	2	5.9%	88	7.4%
大分	44	3	2	1	4	1	2.9%	55	4.6%
宮崎	38	5	2	1	3	0	0.0%	49	4.1%
鹿児島	58	4	3	6	4	4	11.8%	79	6.7%
山口	85	2	3	4	1	1	2.9%	96	8.1%
合計	990	41	32	40	52	34	100.0%	1,189	100.0%

2. 分野別の応募件数

(件)

年度 分野別	S60～H26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元年	シェア	累計	シェア
機械・メカトロ	344	4	9	6	15	7	20.6%	385	32.4%
電機・エレクトロ	166	10	6	11	3	5	14.7%	201	16.9%
化学・新素材	142	8	5	7	7	8	23.5%	177	14.9%
食品・バイオ	100	5	2	7	10	3	8.8%	127	10.7%
その他	238	14	10	9	17	11	32.4%	299	25.1%
合計	990	41	32	40	52	34	100.0%	1,189	100.0%

3. 応募件数に対する助成金交付件数の割合

(件)

年 度	S60～H26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元年	累計
応募件数①	990 (36)	41 (1)	32 (0)	40 (0)	52 (1)	34 (0)	1,189 (38)
交付件数②	257 (29)	11 (0)	11 (0)	8 (0)	17 (1)	16 (0)	320 (30)
②／①	26.0%	26.8%	34.4%	20.0%	32.7%	47.1%	26.9%

※（ ）内は人材育成助成金

これまでの助成金応募・交付状況

(単位：千円)

年 度	合 計											
	研究開発				人材育成							
	応募件数	交付件数	交付率	助成金額	応募件数	交付件数	交付率	助成金額	応募件数	交付件数	交付率	助成金額
昭和60年度	18	4	22.2%	8,500	1	1	100.0%	500	19	5	26.3%	9,000
昭和61年度	20	5	25.0%	11,000	2	0	0.0%	0	22	5	22.7%	11,000
昭和62年度	22	6	27.3%	12,000	2	2	100.0%	1,000	24	8	33.3%	13,000
昭和63年度	15	5	33.3%	14,000	1	1	100.0%	740	16	6	37.5%	14,740
平成元年度	21	6	28.6%	16,000	1	1	100.0%	1,000	22	7	31.8%	17,000
平成2年度	25	5	20.0%	19,000	1	1	100.0%	1,000	26	6	23.1%	20,000
平成3年度	24	5	20.8%	21,800	0	0	—	0	24	5	20.8%	21,800
平成4年度	27	6	22.2%	21,500	3	3	100.0%	2,500	30	9	30.0%	24,000
平成5年度	31	6	19.4%	25,000	3	1	33.3%	1,000	34	7	20.6%	26,000
平成6年度	30	5	16.7%	23,000	1	1	100.0%	1,000	31	6	19.4%	24,000
平成7年度	35	8	22.9%	28,000	2	2	100.0%	2,000	37	10	27.0%	30,000
平成8年度	26	8	30.8%	26,000	2	2	100.0%	1,250	28	10	35.7%	27,250
平成9年度	31	9	29.0%	27,000	1	1	100.0%	500	32	10	31.3%	27,500
平成10年度	34	8	23.5%	25,000	2	2	100.0%	2,000	36	10	27.8%	27,000
平成11年度	56	7	12.5%	22,000	0	0	—	0	56	7	12.5%	22,000
平成12年度	57	9	15.8%	23,000	4	3	75.0%	1,500	61	12	19.7%	24,500
平成13年度	35	8	22.9%	24,000	1	1	100.0%	800	36	9	25.0%	24,800
平成14年度	35	7	20.0%	22,000	2	1	50.0%	1,000	37	8	21.6%	23,000
平成15年度	30	7	23.3%	20,000	0	0	—	0	30	7	23.3%	20,000
平成16年度	21	5	23.8%	18,000	3	2	66.7%	2,000	24	7	29.2%	20,000
平成17年度	35	10	28.6%	24,000	1	1	100.0%	1,000	36	11	30.6%	25,000
平成18年度	29	8	27.6%	22,900	0	0	—	0	29	8	27.6%	22,900
平成19年度	31	8	25.8%	24,000	1	1	100.0%	1,000	32	9	28.1%	25,000
平成20年度	58	12	20.7%	30,000	0	0	—	0	58	12	20.7%	30,000
平成21年度	49	11	22.4%	29,000	1	1	100.0%	1,000	50	12	24.0%	30,000
平成22年度	46	10	21.7%	28,000	0	0	—	0	46	10	21.7%	28,000
平成23年度	40	11	27.5%	29,000	1	1	100.0%	1,000	41	12	29.3%	30,000
平成24年度	26	10	38.5%	30,000	0	0	—	0	26	10	38.5%	30,000
平成25年度	29	10	34.5%	30,000	0	0	—	0	29	10	34.5%	30,000
平成26年度	18	9	50.0%	30,000	0	0	—	0	18	9	50.0%	30,000
平成27年度	40	11	27.5%	29,100	1	0	0.0%	0	41	11	26.8%	29,100
平成28年度	32	11	34.4%	30,000	0	0	—	0	32	11	34.4%	30,000
平成29年度	40	8	20.0%	25,500	0	0	—	0	40	8	20.0%	25,500
平成30年度	51	16	31.4%	58,605	1	1	100.0%	1,000	52	17	32.7%	59,605
令和元年度	34	16	47.1%	53,125	0	0	—	0	34	16	47.1%	53,125
合 計	1,151	290	25.2%	880,030	38	30	78.9%	24,790	1,189	320	26.9%	904,820

令和元年度【研究開発助成金】交付先概要

	助 成 先	所在地	研究開発テーマ
1	株式会社エムビーエス	山口県	透明でひび割れ含浸性能を有するコンクリートはく落防止工法の開発
2	株式会社イシモク・コーポレーション	福岡県	低コスト高意匠性鏡面製材量産化用UV塗料自動塗布装置の開発
3	大坪G S I 株式会社	福岡県	改良した建設発生土を主原料とする新規な堤体遮水材の研究開発
4	株式会社ウエキ産業	福岡県	スギ未利用地際材を用いた割れが無く且つ使用薬剤の溶脱の無い高意匠性大径円盤材製造条件の研究開発
5	株式会社大神	佐賀県	大手食品製造業向け連続式揺動型炒め機の事業化
6	株式会社 ^{コアラ} ^{テック} KOALA Tech	福岡県	有機半導体レーザーダイオード（OSLD）と実装技術に関する研究開発
7	三省製薬株式会社	福岡県	福岡県産竹の機能性開発（化粧品、食品）と最先端材料の製造
8	株式会社 ^{エヌ} ^{ラボ} N Lab	長崎県	AIとヒトがコラボした抗酸菌診断の迅速化とその事業化

※上記の他大学の研究開発テーマ8件に研究開発助成金を交付致しております。

次に助成先のうち中小企業8社の研究開発概要について紹介します。

《研究開発助成金》

(1) 株式会社エムビーエス

- ・透明コーティング材「クリアガード」と「ガラス連続繊維シート」を組み合わせたコンクリートの剥落防止機能付き表面保護工法の開発を行うことにより、「透明性」と「水蒸気透過性」の2つの大きな特徴を有することにより施工後のコンクリート表面の状態を目視で観察できるとともに、コンクリート表面の保護及びコンクリートにとって有害な過剰水分を水蒸気として外部へ放出することが可能となります。
- ・コンクリートのはく落防止と同時にコンクリートの保護も行う事が可能な工法であり、かつ、使用材料や工程が少なくなるため大幅な工期短縮やコスト削減が図れることから、多くのメリットをもつことが出来ます。

(2) 株式会社イシモク・コーポレーション

- ・キッチン扉として塗装鏡面材は高い需要があるが、従来技術では、職人が塗料を塗布し、乾燥後研磨し、また塗布と約30工程を要し、納期が長く、コストも高い。
更にその鏡面性も基材の膨張伸縮により経時変化で劣化するという課題がある。
- ・弊社はその課題を解決すべく、職人の技術を必要としない、全く新しい工業化ラインを用いた塗装方法を開発した。
- ・基材に水分透過率の低い樹脂を塗布し、基材の劣化を抑え、薄膜フィルムに塗料を塗布し、それをプレスしながらUV照射する平滑面転写法という技術である。この開発により工程数3工程、また鏡面性の劣化も抑制する事に成功した。
- ・今後キッチン業界への販売及び自社製品を開発し、建材業界へも販売を広げていきたい。

(3) 大坪GS I 株式会社

- ・ため池整備事業の増加及び遮水材の需要増加が想定され、防災改修工事に必要な堤体盛土の確保が重要となり、本研究では、高機能化、環境配慮、低コスト化を開発目標とする。
 - ①高機能化：遮水性と強度を兼ね備えるため池用人工刃金土を製造するための土壌改良技術を開発し、ため池堤体の強化や長寿命化を図る。そのために、最適混合割合を明らかにし、攪拌混合方法・装置を開発する。
 - ②環境配慮：ため池の水は、主に農業用水として利用されることから、製品の溶出試験において土壌環境基準に適合する製品を開発する。
 - ③低コスト化：本研究開発で開発する製品は、高価な遮水材を用いることなく、主原料を建設発生土由来のシマルド、副原料を近隣の不要土の有明粘土とすることで、製品価格の廉価化を実現する。

(4) 株式会社ウエキ産業

- ・現在、樹木を伐採した後の地際材（切り株）は利用価値が認められず林地に放置されている。
日本で最も蓄積量の多いスギの地際材には直径1 m以上のものもあり、これを輪切りにして年輪の意匠を活かした大径円盤材としてテーブルの天板材等に用い、物語性・歴史性が感じられる商品開発を目指す。
- ・大径円盤材は、乾燥時に木材が不均一に収縮するため大きなV字型の割れが発生し易く、利用上且つ意匠性上の大きな課題となっている。そこで本研究では、様々な使用条件においても恒久的に円盤材の割れを防止する技術を開発する。
- ・これまで未利用であった地際材を活用することで、家具産業だけでなく、林業の活性化や森林の保全にも貢献できる。

(5) 株式会社大神

- ・連続式揺動型炒め機は、従来の円筒トンネル型や平鍋型の加熱不十分な点、清掃性、メンテナンス性を解消し、簡単で生産性向上する。さらに職人の調理動作に近いレシピ、加工、幅広い調理条件へ対応しつつ、1時間当たり1000kg（約5000食、200 g / 食）の大量生産を目指す研究開発。
- ・また、本来の炒め感を出すための調理を可能とするために、火力の強いガスバーナーを使用。高い表面温度、高い熱効率、加熱の均一性、高度な操作性の観点からメタルニットバーナーを採用した。他社の炒め機より約30%省エネとなることも特徴である。
日本の安心・安全そして美味しい炒飯を提供して社会に貢献する。

(6) 株式会社^{コアラ} KOALA ^{テック} Tech

- ・ 本件は、有機半導体の最新テクノロジーに立脚し、これまで夢とされてきた電流励起型有機半導体レーザーダイオード ((Electrically Pumped Organic Semiconductor Laser Diode:OSLD) の実用化に関する研究である。
- ・ 主な用途は、携帯型電子機器の表示素子を中心に市場を広げる有機EL、さらに高性能検出器として登場した有機CCDセンサーと一体化した、スマートフォンをはじめとするウェアラブル生体認識デバイスおよび生体センシングデバイスを想定している。
- ・ OSLDは、現在市場を形成しつつあるOLED、有機センサー、有機太陽電池等の有機半導体デバイスとその作製プロセスにおいて高い互換性を有している。その強みを生かすことで、これまでの無機レーザーでは実現が困難であった新たな応用展開が期待できる。

(7) 三省製薬株式会社

- ・ 竹の幹表皮から「竹幹表皮エキス」を抽出してそのエキ스가、メラニン生成抑制作用を有することから、美白作用、美肌作用を有する化粧品の成分として製品化することに成功し、既に商品として市場に流通させている。
- ・ 本事業では、現状では利用価値がない幹表皮切削工程後の竹材を有効活用して新たな商品を創出することを目指す。
- ・ 具体的には、幹表皮切削工程後の竹材を、加圧水熱処理することにより、キシロオリゴ糖等の糖類、リグニン由来のポリフェノール類を製造し、これらを化粧品等の成分として活用すると共に、その固体残渣を原料として、加熱炭素化処理や賦活処理を行うことで多孔質炭素材料（活性炭）を作製して高性能な電気二重層キャパシタ用電極材料の製造を目指す。

(8) 株式会社^{エヌ} N ^{ラボ} L a b

- ・ 病理医の不足・高齢化および高齢化社会・医療の進歩による検体数の増加は、医師への負担のみならず、診断精度にも疑問を投げかける事態となっている。病理医の育成には時間がかかるため、診断を助ける多数のAIの構築が急務である。
- ・ 我々は長崎大学病理診断科で構築したAIアルゴリズムを用いて、がん細胞数のカウントを既に臨床応用している。
- ・ 長崎大学発のベンチャー企業であり、この経験を活かし、自社内で同様のHALO AIというソフトウェアを購入し、まずはヒトが苦手とし、時間がかかる抗酸菌の有無を判断するアルゴリズムの構築を行う。日常診断に組み込むことで病理医の負担軽減と精度向上への一助となると期待される。
- ・ このノウハウは更に多数のアルゴリズムの構築にも役立つと考えている。

21世紀をひらく新技術・新製品の開発を支援します。

一般財団法人ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団（通称 キューテック）は、福岡銀行が創立40周年を記念し、永年にわたる皆様のご愛顧に感謝申し上げますと共に、いささかでも地域のお役に立つことを願い、昭和60年8月に設立いたしました。

この財団は、九州・山口地域の経済振興に資することを目的としております。

令和2年度の助成金応募のご案内は以下のとおりです。皆様の積極的なご応募をお待ち致しております。

《令和2年度助成金応募のご案内》

【研究開発助成金】

- | | |
|-----------|--|
| 1. 応募資格者 | (1)九州（沖縄県除く）・山口地域に本社があり、かつ研究開発拠点がある中小企業（小規模企業者・個人事業主含む）で、原則として創業後10年以内、または新事業進出後3年以内であること
(2)九州（沖縄県除く）・山口地域の大学・高専 |
| 2. 助成対象事業 | 新技術・新製品等の研究開発で概ね2年程度の研究開発期間を経て、 <u>2年以内に企業化</u> の可能性があるもの |
| 3. 助成金の使途 | 研究開発のために必要な調査研究費、設計費、試作費、試験費、設備費、原材料費 |
| 4. 助成金の額 | (1)1企業につき総費用の1/2以下で、かつ5百万円以内を限度とし、財団が決定した金額
(2)大学・高専は1テーマ（1研究者）につき総費用の1/2以下で、かつ2百万円以内を限度とし、財団が決定した金額 |

【人材育成助成金】

- | | |
|-----------|---|
| 1. 応募資格者 | 前記研究開発助成金の1. (1)と同じ |
| 2. 助成対象事業 | 新技術・新製品等の研究開発 |
| 3. 助成金の使途 | 大学、研究機関等へ研究員を出向させるのに必要な授業料、その他出向研究に必要な費用等 |
| 4. 助成金の額 | 1企業につき、総費用の1/2以下で、かつ1百万円以内を限度とし、財団が決定した金額 |

- 応募受付期間 **【企業の研究開発助成金、人材育成助成金】**
 令和2年4月1日～令和2年8月31日まで（当日消印有効）
 【大学・高専の研究開発助成金】
 令和2年4月1日～令和2年6月30日まで（当日消印有効）

- 応募申込み 下記URLより申込書をダウンロードして記入し、必要書類を添付の上、書留郵便にて送付して下さい。
 URL： <http://www.kyutec.or.jp>

「ふくぎん産学連携サポートサービス」のご紹介

福岡銀行

ふくぎん産学連携 サポートサービス

／こんなお悩みありませんか？／



取り扱っている商品や
技術を改良したい

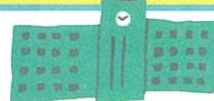
新商品・新技術を
開発中だが
技術的な壁がある

大学が持っている
特許を使いたい

銀行を通じて大学等に
相談できます！

一緒に解決
しましょう

技術的な課題解決は大学にお任せください。
技術指導や共同研究等、様々な方法がありますよ！



▶ 紹介可能な大学・機関

大 学	相 談 分 野						
	農林水産	食 品	医 療	環境・エネルギー	ものづくり	ICT	デザイン
九州大学	●	●	●	●	●	●	●
九州工業大学				●	●	●	
福岡大学			●	●	●	●	
福岡工業大学				●	●	●	
九州産業大学		●	●				●
中村学園大学		●					
熊本大学			●	●	●	●	
長崎大学	●		●	●	●	●	
福岡県工業技術 センター	技術情報や新製品・新技術の開発、試験・分析、補助金・助成金などに関するご質問・ご相談を承っています。						

〈参考〉 魚の養殖／廃棄食材の有効活用／農薬の開発／食品の開発／食品保存技術の開発／医療機器製品の開発／
リサイクル困難素材のリサイクル化／廃棄食材による発電／ロボットの開発／自社製品のデザイン 等

上記の相談分野に関わらず、「自社で解決が難しい」「大学に相談したい」と思われることがございましたら、何でもご相談ください！

費用について

大学との連携には、原則費用が発生します。金額は相談内容により異なります。

- 事前相談は無料ですが、担当専門家(教授・准教授等)との面談は大学によっては有料(1万円程度/時間)です。
- また、共同研究に進むと、数十万円～数百万円の費用が発生する場合があります。



ブランドキャラクター「ユーモ」

あなたのいちばんに。
FFG 福岡フィナンシャルグループ

平成29年8月28日現在

▶ お申込の流れ



※産学連携サポート申込書は営業店でご準備しております。

▶ よくあるご質問

どのような相談でも受け付けてもらえますか？

技術的な課題の解決に関する相談であれば受付可能です。ただし、アイデア出しのお手伝いや単なる性能・成分分析は受けかねますのでご了承ください。

相談は有料ですか？

大学の産学連携担当者による事前相談は無料です。その後、担当専門家(教授・准教授等)との面談は大学によっては有料(1万円程度)となる場合がございます。

大学との連携にはどのような形態がありますか？

主に以下の3つがございます。
「技術指導」…担当専門家(教授・准教授等)が専門的なアドバイスをを行います
「共同研究」…企業と大学が共通の課題について協力して研究を行います
「受託研究」…企業からの委託を受け、担当専門家(教授・准教授等)が研究を行います

どこの大学に相談してよいかわかりません。

ご希望の大学がない場合には銀行が大学の選定を行います。

申込書を記載する際のポイントはありますか？

以下の3点を明確に伝えることが重要です。
①御社の課題 ②目指すべきところ ③大学に何を依頼したいのか

大学と研究を行う場合、どの程度の費用がかかりますか？

研究内容によって費用は異なります。大学と研究を行う際には、御社と大学間で契約書を締結します。契約書には研究内容や研究期間、費用等を記載し両者合意の上で研究を行います。

ご興味をお持ちの企業様、
ぜひ営業店担当者
にお声かけください！



「頼れる相談機関 ふくおか^{アイスト}IST」のご紹介

公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 先端技術開発で、新技術と新産業を創出

公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団は、地域企業や大学等の産学官連携による研究開発から事業化までを一貫支援することで、福岡県の産業構造の高度化や新産業の創出に努めています。ロボット・システム開発センター（福岡市早良区）をはじめ、三次元半導体研究センターと社会システム実証センター（共に糸島市）、有機光エレクトロニクス実用化開発センター（福岡市西区）、福岡県Ruby・コンテンツ産業振興センター（福岡市博多区）の5つの支援センターがあります。

○様々な産業分野で、800を超える研究開発プロジェクト

大学などの研究成果を活用した様々な産業分野で、これまでに800件以上のプロジェクトを支援してきました。

企業の開発課題や大学等の技術シーズを的確にとらえ、図1に示すように、企業の研究開発ステージに応じて、4名のコーディネータ（図2）を中心としたマッチング活動や様々な補助金申請支援活動を行っています。特に、キューテック助成金や国等の公募事業、財団独自の研究開発公募事業へ、企業課題に最適となる事業支援を行っています。

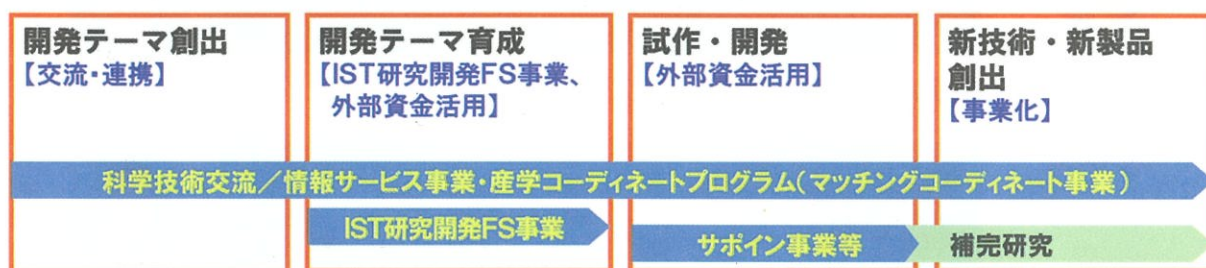


図1 研究開発ステージに応じた技術開発支援



図2 産学コーディネータ

経済産業省が公募するサポイン事業への支援は、当財団の採択率は直近5年間で約70～100%と、全国平均の2倍となっています。また、これまでの実施事業の中から、「ものづくり日本大賞」への応募支援も行い、昨年度は「伝統技術の応用部門：経済産業大臣賞」に、「世界初！！日本古来の醸造技術から生まれた高純度ヒト型セラミドの開発及びその実用化」で福岡県醤油醸造協同組合、（株）篠崎が、「製造生産プロセス部門：優秀賞」に、「防振ゴム製品製造におけるVOC排出ゼロと製造コスト削減を実現する加硫接着プロセス」で中島ゴム工業（株）、久留米工業高等専門学校、福岡県工業技術センター化学繊維研究所が受賞されました。

○産学官「金」による企業支援体制の強化

研究開発で良い成果が得られても、事業化に至るまでには、まだ多くの課題を克服することが必要です。当財団では、研究開発ステージ以降も支援が継続できるように、一昨年、福岡銀行・FFG様と連携協定を結び、図3に示すように、それぞれの強みを活かして研究開発から事業化までを一貫して支援する体制づくりを行いました。

これを進めるために、経済産業省の「地域中核企業ローカルイノベーション促進事業」を活用し、食品と木材、IoTの3分野において、対象企業毎の各ステージにあった支援を進めています。

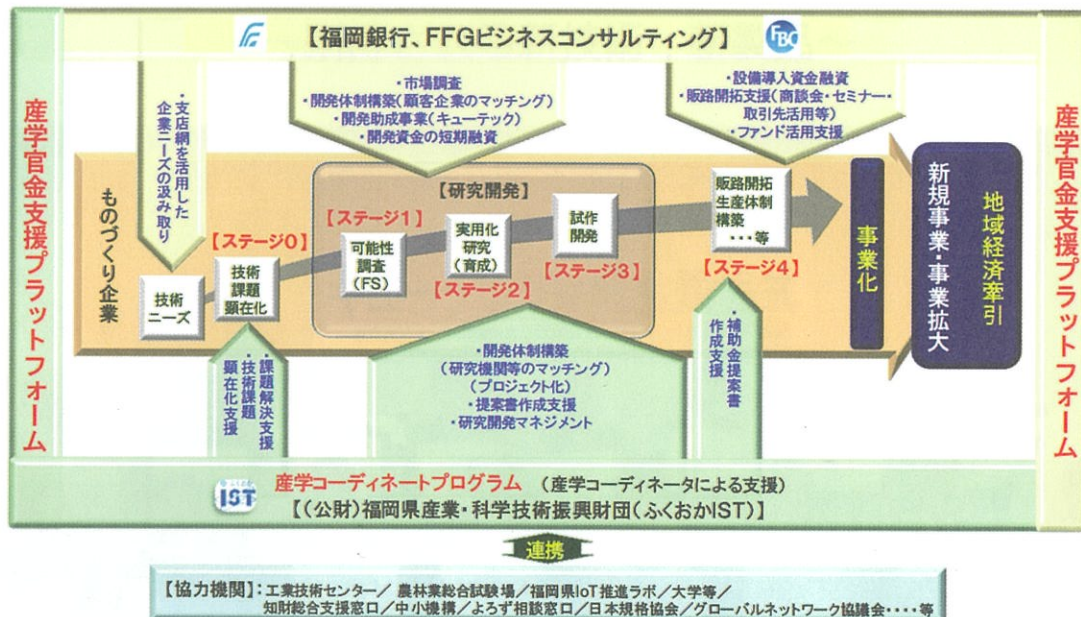


図3 福岡銀行・FFG との産学官金連携支援体制

公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 (ふくおかIST)
ふくおかISTは、産・学・官の研究交流と連携を図り産業の活性化と暮らしの向上に貢献します。

研究交流・研究開発 産学官連携による共同研究を推進し、新技術・新産業の創出を目指します。

ロボット・システム産業の振興

ロボット・システム開発プロジェクト
ロボットやIoTなどのシステム開発支援及び人材育成に取り組んでいます。

社会システムの実証
IoTや半導体製品の実証環境での実証実験や評価、改良を支援します。

半導体実装技術の高度化
複数の半導体チップを三次元に積層するための研究開発、試作・評価を支援します。

有機光エレクトロニクス産業の振興

有機EL実用化プロジェクト
有機光エレクトロニクスシーズの実用化への「橋渡し」を行います。

ルビー・コンテンツ産業の振興

Ruby・コンテンツ開発ベンチャー企業の支援
インキュベーションプログラムや会議室を提供しています。

※ふくおかISTメルマガ会員募集中!! 「メルマガ登録希望」とタイトルに記載の上、istm@ist.or.jpまで空メールを送信ください。

お問い合わせ先 公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 (ふくおかIST)
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目8-53
TEL: 092-832-1301 FAX: 092-832-1309
http://www.ist.or.jp/ e-mail: kor@ist.or.jp